

## 2021 年度 JASMIM 助成金 実施報告

大類 朋美

### 助成イベント名 : Edge Effect Ensemble Concert vol. 1

文化庁 Arts for the future! 補助対象事業

実施日: 2021 年 12 月 12 日 (日)

開催場所: フォレストミュージック ピアノサロン

助成金:1 万円

(ピアノ・大類朋美 サックス・植川縁 ヴィオラ・大島路子 朗読・村田望  
作曲・小出稚子 立体切り絵・牧野和敏)

国内外でクラシック奏者として活動している演奏家 3 人のアンサンブルグループ EEE(Edge Effect Ensemble)の旗揚げコンサート。自分たちの通常の活動場所(安全地帯・生息域)から踏み出し、音楽のエッジ効果による新しい表現を目指して結成。

3 人はこれまで、神奈川県川崎市にある児童養護施設に月一回のペースで訪問し、5 名程度の子どもたちと一緒に音楽ワークショップをする活動を続けて来ました。ワークショップでは、いろんな方法で即興演奏を使って、子どもたちに紙芝居の読み聞かせや、ダンサーをお招きして一緒に身体を動かすなど、一緒に楽しい時間を創出できるようにしています。

今年度は、文化庁補助対象事業 Arts for the future!に採択されたことをきっかけに、即興演奏の可能性をより多くに知ってもらい、クラシック音楽の楽しみ方を広めたいという気持ちから一般公開のコンサートを実施することになりました。

プログラムは大きく 3 つに区分できます。

### 1. 既成曲をもとにしたコンプロヴィゼーション

モーツァルト：トリオ「ケーゲルシュタット」の最終楽章のロンド形式や和声進行に、独自の旋律をのせたり、各楽器のソロセクションを作ったりして演奏しました。ジャズのリードシートのようなコード進行をチャートにしたものを作成し、それを見ながら楽譜とは違う演奏にチャレンジしました。

バルトーク：マイクロコスモスより「オスティナート」も同様に原曲の大まかな調性を抽出し、それに乗せて事前に決めた音階(リディア旋法、バルトークスケールなど)を使ったメロディーを即興演奏しました。

バルトーク：4 4 のデュオより、4 曲をセレクトしました。ほとんど楽譜通りの演奏をしつつも、原曲とは違う楽器編成で、ヴィオラとサックスの他、トイピアノ、ディジュリドゥ、小物打楽器を用い、原曲のメッセージを尊重しつつ、我々独自のサウンドを創作しました。

### 2. 委嘱作品

小出稚子 「せん」 (世界初演)

中部ジャワのガムラン古典曲「ウィルジュン」の骨格を取り出してできた作品。もともとあったメロディーラインは、その曲をよく知っている人にもわからないぐらいにぼかされています。そのメロディーがシンプルな「横の線」を描き、3つの楽器の演奏家が自由に装飾(音楽的肉付け)を施してゆくことで完成します。

楽譜にきちんと音が書かれてありつつも、演奏者に音色、タイミング、微細な音選びを任せていて、作曲家と演奏者の意図とが絶妙なバランスで絡み合っている作品でした。

### 3. フリーインプロヴィゼーション

宮沢賢治 「やまなし」 「おきなぐさ」の朗読にのせた3人による自由即興。朗読とのコラボレーションでフリーインプロするのはサックスの植川さん以外、初体験でした。朗読される詩と音楽とを、どのように結びつけ意味づけられるかを考えたとき、特に筆者であるピアノの大類の希望で、朗読される詩の中に出てくる「カニ」「魚」「ひばり」などに、ライトモチーフのように、対応する音型を事前に作曲し用意しました。そのことによって、音楽全体にまとまり感ができると思ったからです。とは言え、毎回全く違う音楽がその場の演奏者同士や朗読者との相乗効果で出来上がり、回を重ねるごとにもっともっと自分の即興演奏の引き出しを増やしたいと感じる貴重な体験でした。

演奏を聴いてくださった方々からの感想は、以下の通り。（アンケートより）

- ・サウンドの「強度」に頼らないで、どれだけアモルフな展開ができるか、そのための助走なり補助線としての作曲、編曲、言語テキスト、断片の引用、という観点から、興味深い試みでした。

- ・バルトークの土俗的な曲を取り上げたものが興味深かったです。これは即興演奏の過去と未来をつなぐ節点といえます。民俗的な素材とモダニズムの関連性、このテーマは今後も追究する余地が大いにありそうです。

- ・迫力がありました。何が起こるか分からない緊張感も。

- ・とても楽しかったです！！即興と既存の作品との境目がだんだん分からなくなる感じが面白くもありまたスリリングでもあり、ワクワクしました。

- ・とても素晴らしいコンサートでした。凄く感激したのですが出来れば誰もが知っているメジャーな曲などの演奏が聞きたいです。

- ・ダンスや映像、書道、華道などのコラボレーションなど、色々な可能性を感じます。

- ・大変刺激的でした。善くも悪くも自分をさらけ出す場って必要。日々予想できないことばかり。どこから何が来ようとも柔軟性を持って対応する。

- ・即興のコンサートは生まれて初めて体験だったのですが、色々な可能性がありそうです。

- ・美は乱調にあり、と言いますが、乱調をいかにして美となすかが、この演奏会のテーマだったように思います。

